

和気満堂



仙台市消防局長 小野 司

私の勤務しております仙台市消防局の局長室には、大きな書が掲げられており、そこには「和気満堂」（わきどうにみつる）と書かれております。これは、「和やかな雰囲気がこの場に満ちている。また、和やかな雰囲気がこの場に満ちるようにしたいものだ。」との意味があるようです。

消防はその職務の特殊性から、緊急性が高く過酷な環境下での職務遂行が求められます。

また、人の命に関わる職務である以上、消防職員には厳しい指導・訓練が必然的に課されます。そうした中でも、日ごろ「和気、堂に満つる」そのような雰囲気が職場にあることで、厳しい訓練や過酷な現場活動にも耐えることができると考えますし、そしてまた、皆が和気あいあいとした雰囲気の中で力を合わせて業務に励むことで、おのずと活力のある、良い組織（職場）になるものと考えております。

今、人類は経験したことがない新型コロナウイルスとの戦いの真っ只中におります。

未曾有の事態である新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や社会に莫大な影響を与えており、その収束に向け、医療部門をはじめとした関係機関の連携による必死の努力が続いています。この危機の特徴は、これまで経験してきた災害などとは異なり、瞬間に世界各地に深刻な影響を及ぼしたということであり、現代の人々の活動や経済社会の仕組みが、いかにグローバル化したものであるかを痛感させられたところ です。

また感染の拡大は、一人一人の行動を介して世界全体に大きく広がった社会的な現象であり、被害の更なる拡大を防ぐため、私たち自身も日々の行動変容が強く求められています。

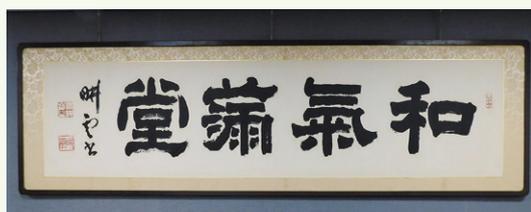
しかしながら、これまで発生した危機もそうであったように、現在の危機も必ず終息させることができること、また、この世界全体を巻き込んだ感染症との戦いは、その先の社会をより良いものとするための糧となることを私は固く信じています。

感染症の拡大という経験のない環境下で、私たち消防機関も住民の負託に応えるべく、普段以上の緊張感を持ちつつ各種の対応を行っております。

現在のところ出口も見通せず、今後も長期にわたって普段とは異なる対応を求められるであろうことは想像に難くありません。一般的に過酷な環境下での職務遂行は、重圧により神経をすり減らすようなストレスを生みがちであり、それが長期化することが相まった際の悪影響は、計り知れないものがあります。

そうした今だからこそ、それぞれの職場でメリハリをつけながらリラックスのできる「和気満堂」の雰囲気を醸成しながら、しっかりと適切に対応していくことが必要なのだと思っております。

閉塞感が漂う環境の中ではありますが、消防職員としての使命感と合わせ、どこか片隅に遊び心を持って楽しむことを心掛けることを忘れずに、今後の輝かしい未来を思い描きながら、この危機を乗り越え、安全・安心の確保に取り組んでまいりましょう。



【仙台市消防局長室に掲げられた「和気満堂」の書】